

校長室の窓'18



道一卒業の歌一

— 心・勇気・友・笑顔 —

寒い寒いと思っていましたが、季節はちゃんと巡って、またサクラのつぼみが膨らんでいます。

6年生は13日に総練習が終わり、明後日に迫った式を待つばかりとなりました。今年の卒業の歌は「道」です。校長室会食に来た6年生5人に「歌っていてぐっとくる場所は？」と尋ねてみました。「泣き笑いしたあの時」「だれも消せない心のアルバム」「動き出した最後の時間」「特別な時間をありがとう」「心 勇気 友 笑顔」と、5人とも違っていました。言葉が心の琴線に触れる思い出は、それぞれ違うようです。

私自身の小学校の卒業式では、「蛍の光」を歌いました。中学校のときは「仰げば尊し」でした。「今こそ別れめいざさらば」で、同級生が号泣していた姿が目に焼き付いています。1970年代のことです。教職に就いてからはたくさんの卒業生を送り出しましたが、一番最初の6年生の「ゴールめざして」と、担任としては最後の卒業生の「旅立ちの日に」が心に残ります。歌詞もメロディーも、いっしょに過ごした時間を思い出させてくれます。

卒業式の歌は過ぎ去った学校生活をもう一度振り返り、旅立ちの決意をさせてくれるものです。「歌は世につれ…」といわれるように、時代によって曲は変わっていても、その時代、その学校にふさわしい歌が、これからもいっぱいの涙で歌われ続けることでしょう。

高村光太郎は詩「道程」で、「ぼくの前に道はない ぼくの後ろに道はできる」と記しました。魯迅は小説「故郷」で「もともと地上に道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。」と記しました。多くの先人が生きることを「道を歩むこと」に例えています。校歌に「正則の子はみんな元気 そうだ みんなで進むのだ」とあります。卒業生のみなさんが、まだ見ぬ未来へ向かって「はつらつと」進むように願いをこめて、在校生みんなまで校歌を歌い続けます。



道 詞:Shogo Kashida

『思い出が 時間を止めた』
今日の日を忘れるなど
見慣れた景色 二度と並べない
思い出の道

この道で 君と出会い
春が僕らを包んでくれた
愛と優しさ 教えてくれたね
泣かないで歩こう

空、今日も青空です
泣き笑いしたあの時
あたりまえが未来に変わる
『希望』『夢』『愛』話したい
動くな時間 空に叫ぶ
キミを忘れない

優しさに出会えたことで
僕は独りじゃなかった
誰も消せない 心のアルバム
笑えるかもね

『動き出した 最後の時間』
君に伝えたい言葉
涙 邪魔して 空を見上げたら
春の音 聞こえた

道、君と歩いた今日まで
かすかに 動く くちびる
特別な時間をありがとう
『心』『勇気』『友』『笑顔』
嬉しすぎて
溢れ出した
涙が とまらない

ゆっくりと歩きだそう
この道 未来へ続く
さよなら 泣かないで
忘れないよ
離れても 愛しています